



牧野和正

『ハリの結び』

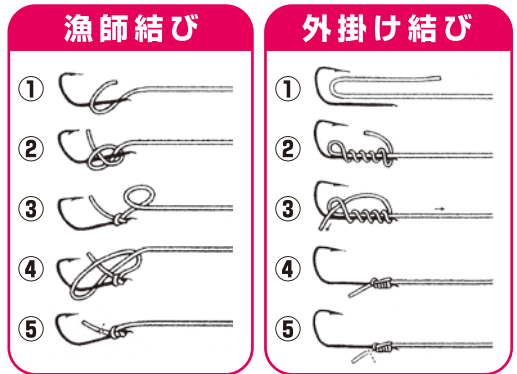


結び目は強く引くと締まるのか？

ハリの結びは古今東西、様々なタイプのものが考えられてきました。

私もいろいろ試してみましたが、漁師結びが一番強いように思われます。

しかし、現在の釣りは結びの強さだけが求められるのではなく、横に折れてしまう漁師結びより素直な、本結びや外掛結びの方が応用範囲が広く、私は外掛結びを主に使っています。釣り人がハ리를結ぶのを見ていますと、釣にくるとハリスをいい加減に巻いて、後は歯で端を噛んで、ハリスとハ리를思いきり引っ張り合っている人が多いようです。外掛結びや本結びの場合、結び目をルーペでじっくり観察したら分かると思いますが、きっちり巻き付けて固定してやれば、後は本線を締めこむだけできっちりとしまります。端を強く引けばお互いが張るだけで全く締まらないので注意して下さい。



ハリの耳のタイプ



撞木

●撞木 (シュモク) ●丸耳

ほとんどの釣りの耳はこのタイプです。撞木とはもともと鐘を鳴らすT字形の仏具です。最近の主流は丸耳が多く使用され、現在市販されている中で最も一般的な形状です。



丸耳

●穴サラエ

石鯛釣りにこのタイプが多く、ワイヤー専用に使われたものです。



穴サラエ

●カン付き (尻曲がり)

現在ルアーで主流となっていますが、なぜこのようなタイプが作られたか不思議でした。撞木や穴サラエよりも耳が大きく、何のメリットもないだろうとハリメーカーに質問しましたが、メーカーも分からないとの答えでした。しかし、色々調べると答えは簡単でした。撞木で結ぶことのできない釣り人のために作られたもので、欧米で作られているほとんどはこのタイプです。日本人と比べ手先が不器用なため、この形状が考えられたのでしょう。



尻曲がり

実際、海外の釣り場で彼らの前でいとも簡単に撞木の釣りに結びつけると、彼らは目を見張り、結び目の強さを確かめ、仕上がりの美しさに関心するそうです。



ギザ耳

●ギザ耳

アユ掛け釣りはこのタイプが多く、根巻糸でハリの軸に巻いて止める結び方です。

長い年月をかけて作られてきた多くの種類の中には、エサをどのようにつけ、ハリスをどのように結べば魚が食いやすいか、結び方によってハリの性能、糸の性能が左右されます。

現在日本で売られているハリはおよそ800種類。それぞれの号数を集めると8000種類もあると言われています。この中から魚の習性、エサ、強度 etc... を考えに入れて、自分の好きな結び方で釣るとはとても楽しいものなのです。